

## 香港上海銀行、1865－1913年

法政大学 西村 閑也

香港上海銀行は、1865年3月 Hongkong and Shanghai Banking Company (Limited)として設立された(以下、HSBCと略す)。設立発起人は、香港現地の有力商社であった。ラッセル社、デント社のほかにサッスーン社が含まれていたこと、ジャーディン・マセソン社が含まれていなかったこと、有力ドイツ系商社が含まれていたことが注意を引く。取締役会権限は、上級職員人事と利益処分のみで、日常の業務運営は総支配人以下の職員に完全に委任されていた。取締役の日常業務関与は、顧客である一般商社の機密が競争相手へ漏洩する恐れがあるからである。また上海支店長は総支配人と同格であり、中国内の他店を統括し、広い職務権限を有していた。香港と東アジアの諸支店との間の書信往復が、2週間以内に可能であったことも、アジア現地の顧客のニーズに迅速・弾力的に対応することを可能にした。他行ロンドン本店と上海間の書信往復は数十日を要していたので、顧客にはHSBCとの取引が便利だったのである。1866年香港植民地法令第5号で、The Hongkong and Shanghai Banking Corporation となったが、他英系銀行は、王室特許状によって設立され、特許状はさまざまな業務制限規定を含んでいた。支店は、喜望峰の東方にしか設けてはならない。ロンドンで、当座預金業務を営んではならない、など。この種の制限はHSBCには適用されなかったもので、早くから、リヨン、ハンブルクなどに支店を設けることが出来た。ロンドン店の当座預金業務は、本国の預金銀行と競合しないようにしたが、東アジア諸国の外債発行業務ではマーチャント・バンクとして振る舞い、年間純益の10-20%を証券発行業務から得ていた。これは、HSBCの現地預金増をもたらすものでもあった。HSBCが業容を一気に拡大した契機は、1884年における英国東洋銀行の破綻である。資産総額は、1880年£8.8百万→1890年25.6百万と三倍になった。90年代には横浜正金銀行など非英系銀行からの競争が激化し、1900年の資産は、22.0百万と伸び悩んだが、1913年には、39.9百万になった。主因は、アジアの貿易の成長加速であるが、非英系銀行の競争はますます激化していた。1913年には横浜正金銀行資産は、HSBCを上回ったのである。